

新潟県の地震概況 令和8年(2026年)8月

令和8年9月9日

新潟地方気象台

【8月の地震活動概況】

この期間、県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(最大は震度3)でした。このうち、新潟県とその周辺(図1)で発生した地震で、県内で震度1以上を観測した地震は2回でした。(「期間内に発生した主な地震」を参照)

【8月に新潟県周辺で発生した地震】

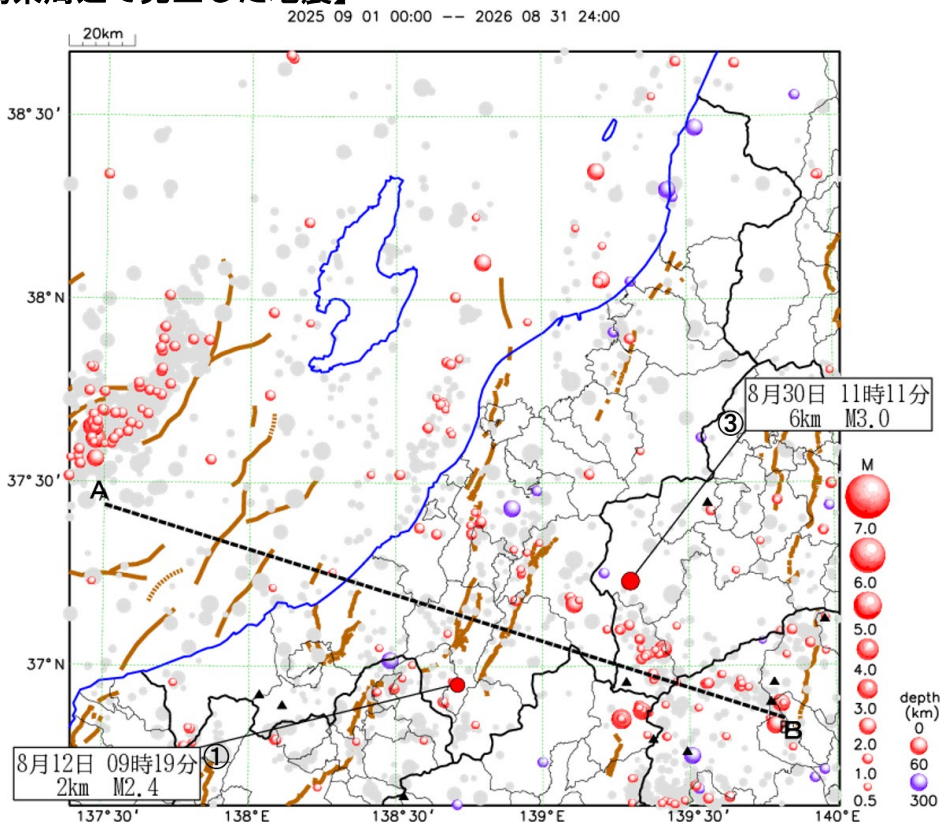


図1 震央分布図(深さ0~300km、M0.5以上)

※過去1年間の地震を示す。令和8年8月に発生した地震を赤又は青、それ以前はグレーで示す。茶色線は地震調査研究推進本部で長期評価されている活断層を示す。図中の▲は活火山を、✕は深部低周波地震を示す。

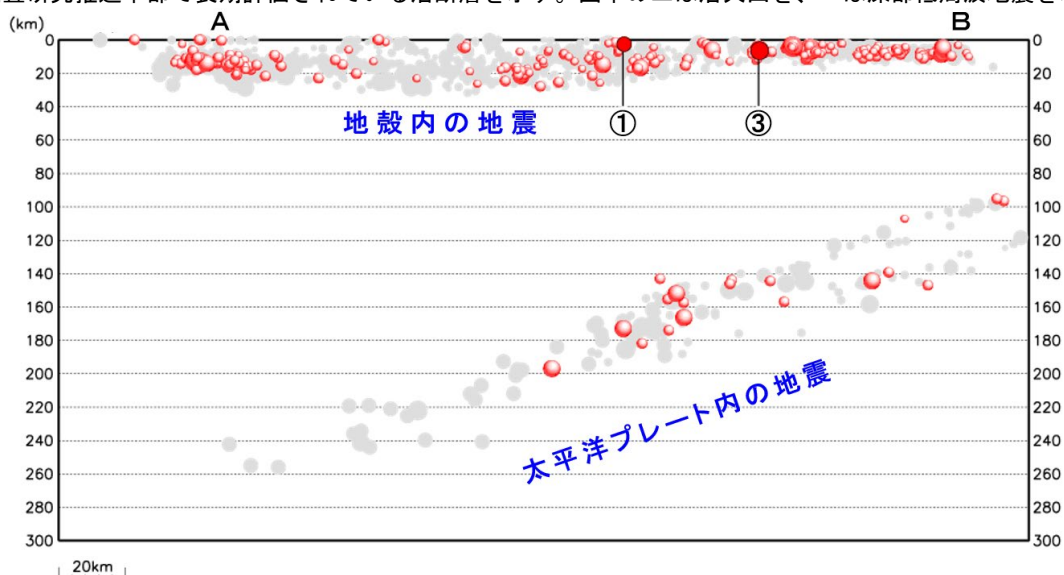


図2 断面図(図1の領域内をA-B面で投影:縦軸の深さは1/2の縮尺)

【期間内に発生した主な地震】

- ① 12日09時19分 新潟県中越地方の地震（深さ2km、M2.4）により、十日町市および津南町で震度1を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。
- ② 23日02時00分 茨城県南部の地震（深さ68km、M5.9）により、茨城県、埼玉県、千葉県および東京都で震度5弱を観測したほか、東北地方から近畿地方にかけて震度4～1を観測しました。新潟県では刈羽村および南魚沼市で震度3を観測したほか、上越、中越および下越で震度2～1を観測しました。この地震は太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生しました。
- ③ 30日11時11分 福島県会津の地震（深さ6km、M3.0）により、福島県および新潟県で震度1を観測しました。新潟県では魚沼市で震度1を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。

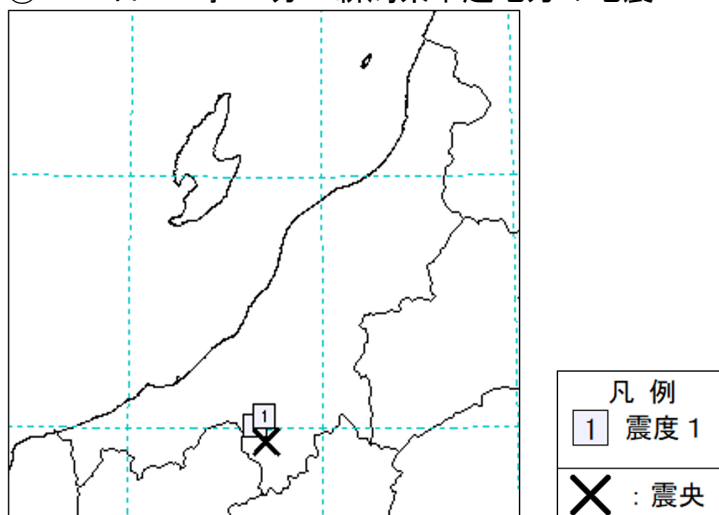
【新潟県内で震度1以上を観測した地震】

期間 2026年8月1日～2026年8月31日

地震の発生日時（年/月/日/時:分）	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	全国最大震度
各地の震度 *は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点						
① 2026年08月12日09時19分	新潟県中越地方	36° 57.0' N	138° 42.6' E	2km	M2.4	1
震度1：十日町市上山＊、津南町下船渡＊						
② 2026年08月23日02時00分	茨城県南部	35° 59.9' N	140° 05.7' E	68km	M5.9	5弱
震度3：刈羽村割町新田＊、南魚沼市六日町						
震度2：上越市三和区井ノ口＊、長岡市浦＊、長岡市上岩井＊、長岡市小国町法坂＊、長岡市小島谷＊、長岡市山古志竹沢＊、長岡市寺泊敦ケ曾根＊、長岡市東川口＊、長岡市中之島＊、三条市新堀＊、柏崎市日石町＊、小千谷市旭町＊、加茂市幸町＊、十日町市松之山＊、見附市昭和町＊、南魚沼市塩沢小学校＊、南魚沼市塩沢庁舎＊、新発田市乙次＊、新発田市住田＊、村上市岩船駅前＊、燕市秋葉町＊、燕市吉田西太田＊、燕市分水桜町＊、阿賀野市岡山町＊、阿賀野市姥ヶ橋＊、新潟江南区泉町＊、新潟南区白根＊、新潟西蒲区巻仮設庁舎						
震度1：上越市中ノ俣、上越市大手町、上越市木田＊、上越市安塚区安塚＊、上越市柿崎区柿崎＊、上越市頸城区百間町＊、上越市吉川区原之町＊、上越市板倉区針＊、長岡市幸町、長岡市千手＊、長岡市与板町与板＊、長岡市中央公園＊、三条市西裏館＊、三条市荻堀＊、柏崎市西山町池浦＊、柏崎市高柳町岡野町＊、小千谷市城内、十日町市下条＊、十日町市千歳町＊、十日町市上山＊、十日町市松代＊、十日町市水口沢＊、田上町原ヶ崎新田＊、出雲崎町米田、出雲崎町川西＊、湯沢町神立＊、津南町下船渡＊、魚沼市下折立、魚沼市今泉＊、魚沼市堀之内＊、魚沼市須原＊、魚沼市小出島＊、南魚沼市浦佐＊、新発田市本町＊、新発田市中央町＊、新発田市真野原外＊、村上市山口＊、五泉市村松乙、五泉市太田＊、聖籠町諏訪山＊、弥彦村矢作＊、阿賀野市山崎＊、阿賀野市かがやき＊、阿賀町鹿瀬＊、阿賀町豊川＊、阿賀町津川＊、胎内市新和町、新潟北区東栄町＊、新潟空港、新潟東区下木戸＊、新潟中央区美咲町、新潟秋葉区新津東町＊、新潟西区寺尾東＊、新潟西蒲区巻甲＊						
③ 2026年08月30日11時11分	福島県会津	37° 13.9' N	139° 18.0' E	6km	M3.0	1
震度1：魚沼市須原＊						

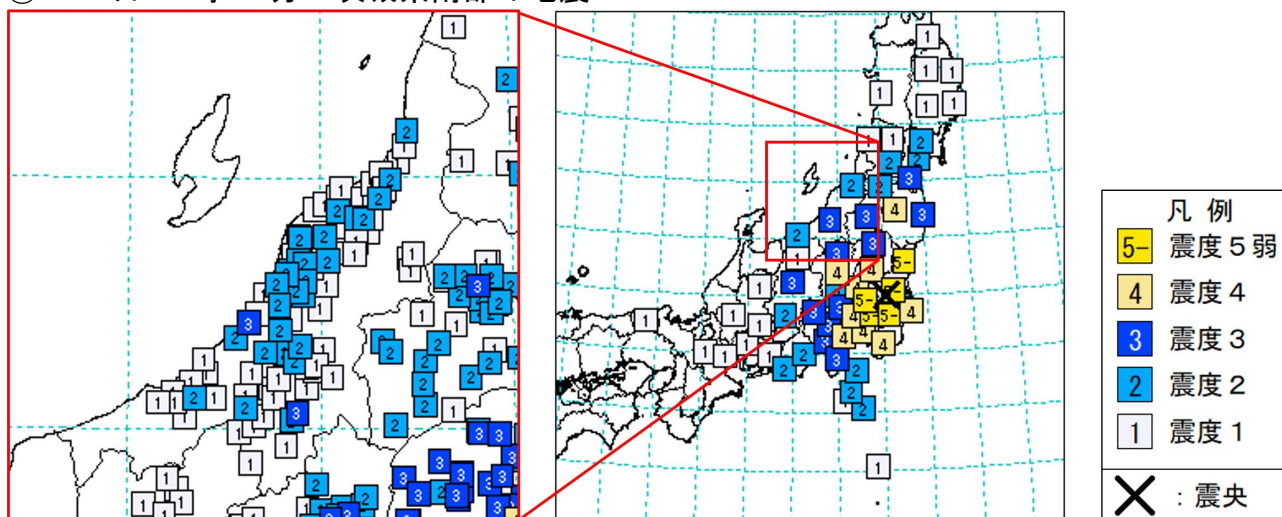
【震度分布図】

① 12日09時19分 新潟県中越地方の地震



観測点別震度分布図

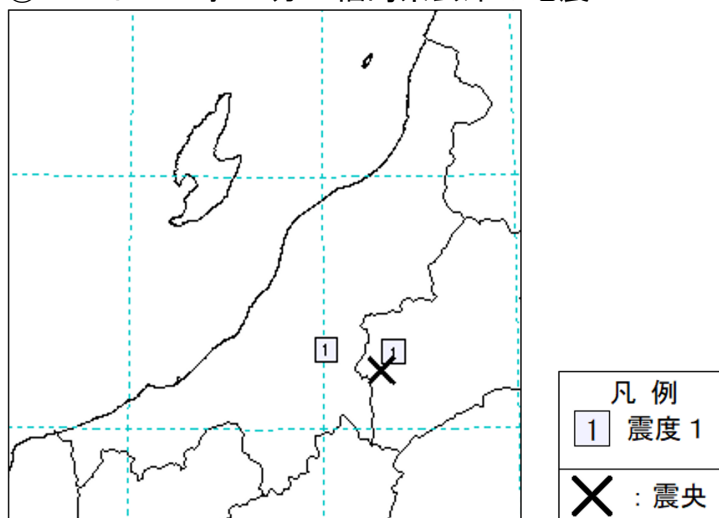
② 23日02時00分 茨城県南部の地震



観測点別震度分布図

地域別震度分布図

③ 30日11時11分 福島県会津の地震



観測点別震度分布図

【新潟県内で最大震度 1 以上を観測した月別・震度別地震回数表】

年	2025 年				2026 年								
月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	合計
震度 1	1	0	1	6	5	2	1	2	0	1	0	2	21
震度 2	0	3	4	3	0	0	2	5	0	3	3	0	23
震度 3	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	1	7
震度 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	3	5	10	5	2	3	8	1	7	3	3	51

【防災教育に使える副教材・副読本ポータル】

気象庁では防災教育にご利用いただけるeラーニング教材を公開しました。自治体職員向けの研修や、自治会の研修等にぜひご活用ください。ワークシートも附属しています。

・eラーニング「地震・津波から命を守る」

地震・津波から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jma-svd-el/jishin/jishin-tsunami.html>

・eラーニング「火山災害から命を守る」

火山災害から命を守るための基本的な知識と取るべき行動を学びます。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jma-svd-el/kazan/kazan.html>

※この他にも「防災教育に使える副教材・副読本ポータル」サイトで有効な教材を各種公開しています。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/fukukyouzai/index.html>

注) 利用にあたって

- ・資料は速報であり後日の調査により変更されることがあります。
- ・気象庁では地震の震源、マグニチュード等を算出するにあたり、国立大学法人などの関係機関から地震観測データの提供を受け(注1)、文部科学省と協力して処理を行っています。
また、震度の情報は、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供された観測データを含めて発表しています。

(注1) 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

- ・この地震概況は新潟地方気象台ホームページの地震解説資料・地震概況のページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/niigata/jishin/jishin_kaisetu_index.html
- ・資料についての問い合わせ先：新潟地方気象台電話：025-281-5872

新潟県の地形 —地形から見る液状化リスク—

新潟県の平野部は、信濃川や阿賀野川が長い年月をかけて運んだ砂や泥によって形成されました。そのため、地下には比較的新しい時代の柔らかい地層が厚く堆積しています。

💡 こうした地盤は、豊かな農地や市街地を支える一方で、大きな地震の揺れによって液状化が発生しやすい特徴があります。

液状化が発生すると・・・

生活に長期間の支障が生じる可能性があります。

地面から砂と水が噴き出す

建物が傾く

道路や上下水道が被害を受ける



新潟市では 1964 年の新潟地震において、大規模な液状化現象が発生し、建物の傾斜やインフラ被害が広い範囲で発生しました。これは世界的にも液状化被害の代表事例として知られています。

昔の地形を知ることが防災につながる！

液状化はどこでも同じように起こるわけではありません。

昔の川や河道 河口付近の低地 湿地を埋め立てた場所 など



これらの場所は、現在は住宅地や市街地になっていても、地下には液状化しやすい砂質の地盤が残っていることがあります。

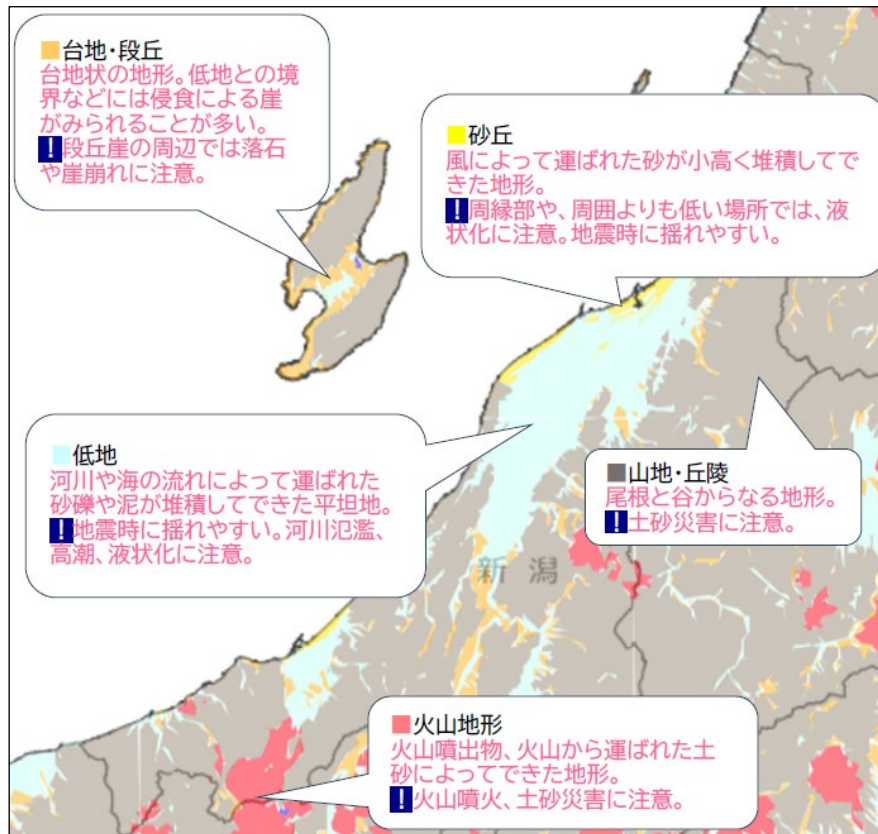


図3 新潟県の地形と想定される災害の種類

※一般的な自然災害リスクであり、個別の場所のリスクを示しているものではありません。
引用：国土交通省国土地理院「重ねるハザードマップ」に加筆 <https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>

私たちにできることは・・・

地形は変えることができません。

しかしながら、自分が暮らす場所の地形や土地の成り立ちを知ることによって、将来発生する地震への備えを進めることができます。

ハザードマップを
確認しておく

地盤情報・地形分
類などを見ておく

自宅周辺の土地の
履歴を調べてみる

災害の種類によっ
て避難場所が違っ
たことを知っておく

家具固定や備蓄を
すすめる



まず、ひとつアクションを起こしてみましょう

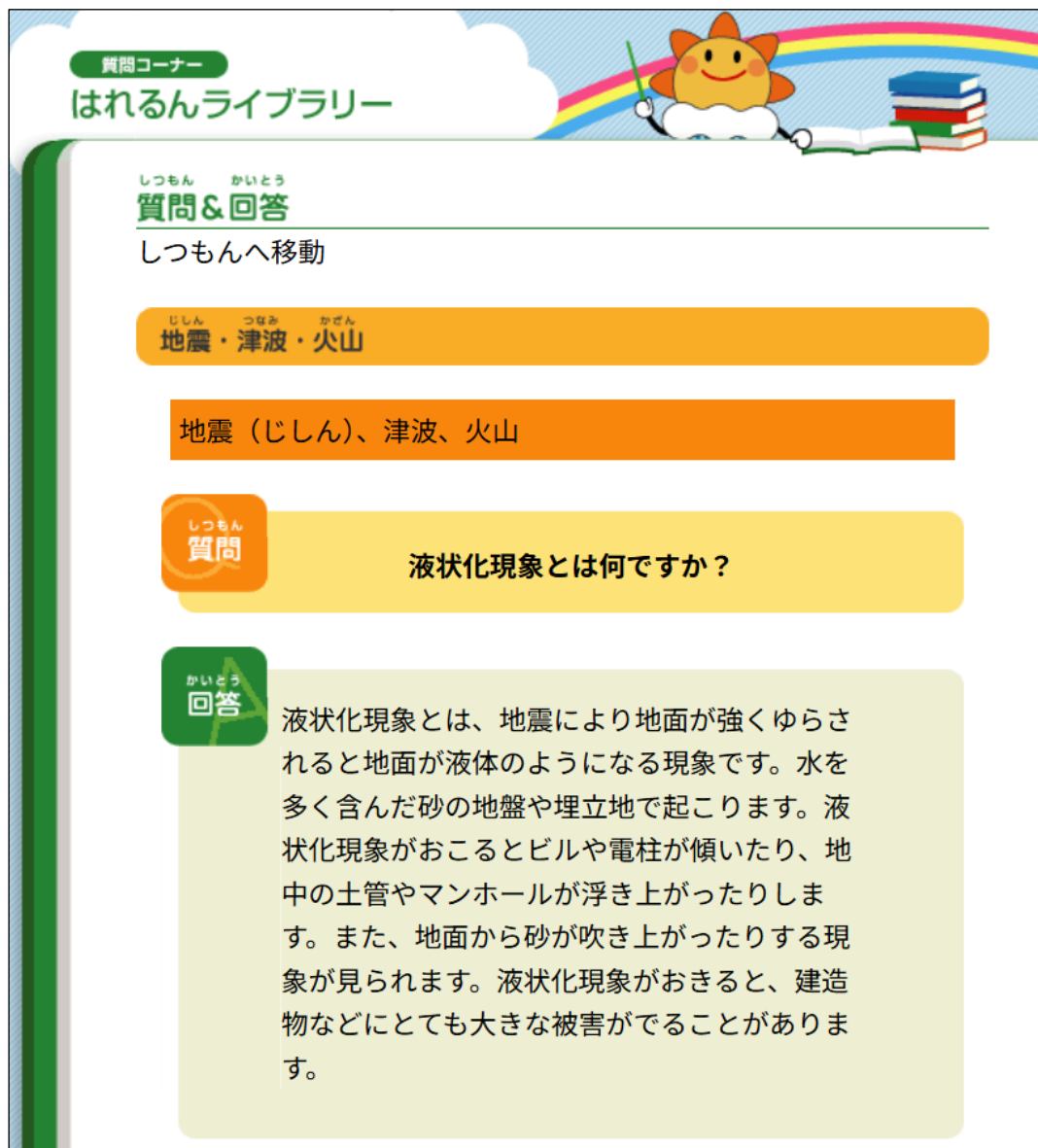
新潟県の豊かな平野は、川や海が長い年月をかけてつくり上げた大地です。

土地の成り立ちを知ることが、液状化被害から命と暮らしを守るための第一歩です。

「あなたの住む場所は昔、川だった？ 潟だった？」

まずは、地形図やハザードマップで確認してみましょう。

気象庁では、自然現象の不思議について、気象庁のマスコットキャラクター「はれるん」が解説しています。ぜひご覧ください。



質問コーナー
はれるんライブラリー

しつもん かいとう
質問&回答

しつもんへ移動

じしん つなみ かざん
地震・津波・火山

地震（じしん）、津波、火山

しつもん
質問

液状化現象とは何ですか？

かいとう
回答

液状化現象とは、地震により地面が強くゆらされると地面が液体のようになる現象です。水を多く含んだ砂の地盤や埋立地で起こります。液状化現象がおこるとビルや電柱が傾いたり、地中の土管やマンホールが浮き上がったりします。また、地面から砂が吹き上がったりする現象が見られます。液状化現象がおきると、建造物などにとても大きな被害がでることがあります。

引用：はれるんライブラリー <https://www.jma.go.jp/jma/kids/kids/faq.html>